

2020年2月8日

2019年度地域まるごとケア・プロジェクト

調査&交流会開催報告会

参加者アンケート

参加者数78名 回答数 29名 回答率 37%

1. このフォーラムをどこでお知りになりましたか？

- ・応援団メールマガジン(10)・友人・知人からの紹介(5)
- ・応援団からのメール (4) ・他団体からの紹介(4)
- ・チラシ(2)

2. 報告会の感想をお聞かせください。

- ・大日向先生のお話がとても勉強になった。地域での男性の参加、巻き込みの方法を活用したい。潜在的な力を感じた。(5)
- ・中高年の男性を巻き込んでいくことの大切さと重要さを感じた。かわりのきつかけ作りの大変さを感じた。関わり人はたくさんいるので、第一歩ができれば、何とかなると思った。
- ・男性の子ども・子育て・家族支援養成講座にチャレンジしたい。「ごちゃまぜ」わが団体もまさに同じで20年以上やってきた。どこにもわかってもらえず、お金もまわってこないまま楽しんでいる。
- ・男性の巻き込み方に悩んでいた、「あい・ぼーと」の活動を楽しく聞かせてもらった。
- ・広場としての価値観をそろえることが第一歩だと思っているので、「まちプロ養成講座」の内容に興味がある。
- ・大日向先生の声のトーンが心地よく、いつまでも話を聞いていたい感じだった。
- ・いろいろなスタイルの実践報告は大変参考になった。ヒントをたくさんいただきました。
- ・実践報告がとても参考になった。自己実現、自己啓発に自治体も関わるべきことが納得できた。
- ・目の前にいる人に何かできることはないか、という思いで突き動かされているパネラーの皆さんの活動が本当に地域に必要とされていると感じた。
- ・加藤さんの考え方に納得できた。「ないもの」ではなく、「あるもの」に目を向けていくことで、出会いが生まれる。加藤さんの「一緒に生きていけたらいいなぐらいで」が印象的だった。
- ・加藤氏の話聞き、「田舎にある大きな家をなんとか使えないか」と心が動いた。
- ・参加して心がほっこりとなった。「みやの森カフェ」の話はとても興味深かった。
- ・自分の住む地域も札幌と似ている部分があり、共感を持って「かざぐるま」の話をきいた。
- ・どの団体の方もとてもしっかりした考えの元に行動、実現されていることがすごい。
- ・現在、考慮中の子育て支援策についてかなり関連性があったので、参考になった。考えの整理ができた。
- ・登壇者の方々のような活動が自分の地域にももっと広がっていけばよいと思った。
- ・皆さま、いろいろと考えて楽しく活動していると思った。
- ・すばらしかった。「まるごと」の4文字にすべてが凝縮されている。励みになった。
- ・ごちゃまぜの可能性について考えさせられた。
- ・いろいろな支援の方法があることが興味深かった。
- ・私が目指しているものにつながった。

- ・やってみたい、おもしろそう、の気持ちが大切。
- ・「きょうだい児」の言葉の意味を始めて知った。
- ・今日、知ったことを多くの人に話していきたい。
- ・21世紀の少子高齢化社会をつまびらかにし、一人一人が地域の中で活躍できるようなメニューを提案してくださった。
- ・「ともにたたかう仲間」「ビジョンを持つ」が心に残った。
- ・昨年のキーワード、TTP(とことんパクリ)を実践していきたい。

3. 地域まるごとケアを実現する地域づくりに向けたあなたの思いをお聞かせください。

- ・これから新しくつくる居場所づくりも、市民発・ごちゃまぜ・真剣・まるごとケアをめざします!(2)
- ・子育て支援拠点のスタッフとして働いているが、色々なつながりを求めていると思った。(2)
- ・子どもは社会の宝物。子育てを楽しんでいる親が増えていくような地域にしたい。(2)
- ・あまり身構えないでしかけないで、そのまま向き合うことを大切にしたい。
- ・「じゃあ、あなたははどうするの」が引き続き問われていると感じた。
- ・虐待予防のために、地域のネットワークづくりをしていくことが必要だと感じた。
- ・まるごとケアを考えると、個々ではなく、さまざまところの問題がつながっていると感じた。少しずつ考えていきたい。
- ・地域の声に耳を傾け、ビジョンを持ちながら頑張る、そういう支援者になって優しい地域にしたい。
- ・誰でもできる、どこでもできる地域まるごとケアのうねりは昔から続いている。消さないことが大切。
- ・私たちのNPOも「ごちゃまぜ」いろいろな形で独立させて活動している。また、やりたいことを見つけた。
- ・行政をどう取り込むか、特にタワマンのような住居空間にいる市民をどう巻き込むかが悩ましい。
- ・ごちゃまぜを地域に広げていくために頑張らなければ!
- ・生きがいを実現できる地域づくりを目指している。誰もが支え手になれる、たとえ認知症になっても活躍できる地域が理想。
- ・仕事で子育て支援をしているが、自分が地域で何かできるのでは、と思った。
- ・それぞれに役割がある。それぞれが「当事者」である。
- ・今後はごちゃまぜの形が増えるのでは、と思った。
- ・微力でも無力ではないことを信じて、少しずつやっていきたい。
- ・「あそこに行けばなんとかなる」広場づくりをしていきたい。

4. 地域まるごとケア・プロジェクトへのご意見・ご提案などがあればお聞かせください

- ・もっと自治体に声をあげてください!
- ・ユニークな中高年参加の子育て支援の事例をたくさん紹介してほしい。
- ・一年に一回、ここへ来るとパワーをいただいで帰れます。
- ・力強くがんばってください。
- ・九州でもこういう交流会を開いてほしい。
- ・もっと広報してもらおうと良かった。難しい会と思っていたが、来て良かった。
- ・他団体とリンクした活動を。